

研修 2 日め

午前

研修③:東京電力福島第一原子力発電所の視察

東京電力廃炉資料館を訪問し、そこで東京電力の原発事故に関する映像を観た後、東京電力福島第一原子力発電所へ移動しました。事前にしっかりと説明を受けたのち、厳重に管理された施設内をバスで移動しながら要所要所で下車して視察できました。



午後

研修④:浪江町と双葉町のフィールドワーク

道の駅なみえに移動して昼食後、浪江町と双葉町を現地の方にガイドしていただきながらフィールドワーク。誰も戻ることができず、震災当時のまま 10 年以上経つ家々を目の当たりにしました。

途中、震災遺構浪江町立請戸小学校にも立ち寄りました。生徒たちは熱心に現場を見て、さらにいくつも写真を撮り、あちこちの説明や文章を読んで回っていました。映像や資料、被災した方々だけでなく、救援にきた自衛隊の方たちの思いが詰まった場所だったこともあり、当初の予定時間では回り切れずに延長して出発を遅らせるほどでした。(バスの運転手の方曰く、延長してまで熱心に見て回ってくれる高校生たちは初めてだと驚かれていました。)



ガイドをしてくださった方は、震災当時消防団に所属しておられた方で、現場で感じた複雑な思いを私たちに語ってくださいました。ガイドの方が実際に災害を経験した時の話を聞いた生徒は、「助けられたかもしれない人たちの声が忘れられず、ずっとそのときのどうしようもできない気持ちが強く心の内に残っていることを感じ、人のことを考え続けるところに『人』であることを感じた」と感想を語ってくれました。生徒にとって大切な経験となったのだと思います。

夕食後

研修⑤:GLHS 校卒業生の方との意見交換会

受け止めた思いをアウトプットすることも大切です。卒業生の方とのやりとりを経て、グループワークを実施。ここまでの研修で感じたことを語り合い、班で感じたこと、考えたこと、疑問を発表しました。卒業生の方が、各班の思いを一つ一つ丁寧に受け止め、コメントを返してくださったことがとても印象的でした。





生徒にこの日感じたことをまとめてもらえないか提案したところ、時間をかけて悩んだ末に、次のように文章にしてくれました。（具体的な名前については改編しています）

1日を通した研修を通じて、私は事前に調べてきた内容の中で、決定的に抜け落ちていた視点があることに気づいた。それは「正しさ」や「正義」がどのように形づくられているのかという点である。福島第一原発のガイドを務めるAさんは、事故を起こしてしまったという動画の冒頭で、ずっと頭を下げている姿が印象的だった。しかし話を聞いていくうちに、Aさんがこのガイドという仕事に誇りを持って取り組んでいることが伝わってきた。福島第一原発のガイドを務め、その情報を発信し続けること自体が、Aさんにとっての正義なのだと感じた。また、午後に行われた浪江町見学でツアーコンダクターを務めていたBさんは、事故当時消防団員として、人の命をできる限り救うという正義を胸に行動していたことが、慰霊碑の前での話から伺えた。一方で、加害者と被害者という立場が完全に消え去ることはなく、原発事故に対して多少のわだかまりや複雑な感情を抱いているようにも見えた。しかし同時に、原発を受け入れたことによる恩恵の側面も冷静に捉え、自分ではどうすることもできない大きな出来事に対する思いを抑えながら、ガイドという仕事を通して福島これからを考えている。その姿勢もまた、Bさんなりの正しさなのだと感じた。さらにCさんは、原発構内に入る人々の安全を確実に守ることが、自身の正しさであると語っていた。今回の研修は、事前に調べていく中で、政府側や企業側の立場に近い情報が多いように感じていたため、原発事故をめぐる裁判を行っている方の話や、原子力資料情報室など、反対の立場にある人々の意見も聞いてみた。そこでもやはり、それぞれの正しさや正義があり、それに基づいて主張しているのだと感じた。ただし、さまざまな立場における正しさとは、正しい知識を持ち、原発のプラス面とマイナス面の両方を理解した上で成り立つものだと考えるようになった。風評被害についても多く語られているが、その根幹には「なんとなく危なそう」「難しそうだから避ける」といった曖昧な認識が大きな割合を占めているのではないかと思う。否定的な意見を持つ人の中で、果たしてどれほどの人が正確な知識に基づいて主張しているのだろうか。風評被害を完全になくすことは難しいかもしれない。しかし、正しい知識を広げていくための努力を継続していくことこそが、最も現実的で重要な解決策であると感じた。

★ご協力くださった主な会社・施設等

東京電力ホールディングス 原子力の取り組み：[HP](#)

東京電力廃炉資料館：[HP](#)

道の駅なみえ：[HP](#)

震災遺構浪江町立請戸小学校：[HP](#)